

## 第 1 回、第 2 回懇談会結果を踏まえて (第 2 回懇談会結果を太字で表記)

### 主な御意見

### 見えてきたもの(事務局)

#### 1 人材像、育むべく資質・能力

- 社会の変化があっても、生き抜くことができる子どもの育成
- 今までのアイデア、技術では対応できないが増えており、こうしたものに対応できる人材を福島から育成できれば良い
- 正解のない課題を解くことができる力、どんな天変地異が起きても自分で考え、行動し、解決する力を身につけさせなければならない
- 社会における課題に当事者としての危機を持って取り組み、対話と協働により正解のない課題に粘り強く挑戦していく力が求められる
- 震災以降の社会の急激な変化に対して、自分で考え対応していくことができるような教育が必要**

- 社会の変化に対応していくことができる人材の育成**

- 復興・創生を背負わされるあまり、それに直接関わらない個性が排除されないようにしなければならない
- 個性を磨き、それを生かすことで強く生きていく力をつけさせるのが本来の教育ではないか
- 全ての生徒が自分の良さを見つけ、それを伸ばして人生を切り拓く力と社会を作っていく力を身につけさせたい
- 技術やアイデアだけでなく、プロジェクトリーダーになれる人材育成が必要
- 福島県や日本を担っていくリーダーも、地域の産業を支える人材も必要**
- その土地の文化や歴史、新しい魅力に気づきができる人間の育成が必要
- 格差の広がりを感じる
- 震災の経験や記憶がない子供たちが増えつつある
- 難関大学進学は、個人の人生だけでなく、社会でどのような役割を果たすのかという、社会を作るという観点から福島県として目指すことが必要**

- 復興・創生等、地域を担う力と自分の人生を切り拓く力の育成
- 多様な個性を生かした多様な人材の育成**

## 主な御意見

- 東北の他県と比べて難関大進学者が少なく、学力が低い状態にある
- 家庭学習の習慣は増えているが、学力が全国平均で劣っているのは問題であり、分析が必要
- 難関大学に行った身近な人からの話が、進学への意欲の向上につながるのではないか
- 国際社会の中で日本の子どもたちが委縮している状態で、英語4技能はこれからの若者に必要
- 自己肯定感、善悪の判断、主体性、困難があってもやり抜く力、人と関わる力、コミュニケーション能力などの資質・能力の基礎を養っていききたい
- 学び続けることができる能力、違いに対して分析する能力、協働して相手の意見を取り入れながら、ベストソリューションを作り得る能力が必要
- 成果主義、テレワークが広がっているからこそ豊かな心、思いやり、人と人を繋げる人になるような教育が必要

- 心を強く保てない子ども、世代が増えている
- 自己肯定ができる人間が必要
- 勉強はできるが、自己肯定感が低い子供がいる
- 自己肯定と同時に地域を担う人間を育てたい
- 自分は自分のままでいいんだという意識が高くない
- 間違ふこと、失敗を最初から嫌がる、怖がる子どもがいる
- 自己肯定と他者への敬意、寛容性をもてる人間を育てたい
- 自己肯定感に関しては人権尊重の精神の涵養も必要

## 見えてきたもの(事務局)

- 確かな学力の育成とコミュニケーション能力や創造性・主体性、困難があってもやり抜く力等の育成

- 自己肯定と他者への寛容

2 学びの環境

(1)総論

- 大学と教育委員会の連携ができると良いのではないか
- 小中高大の縦のラインを意識することが必要
- 学力向上の面からも、小中高大の繋がりが必要
- 小中高の目標が、バラバラになっているならば、きちんとつながるよう検証を。小中高一貫した教育を実現したい
- 福島県独自のeポートフォリオの作成等一人の児童生徒がどうなったのかの追跡調査を行い、教育課程等にフィードバックを行う仕組みも必要ではないか

- 関係機関との連携の必要性(小中高大の連携、大学と教委の連携等)

- 「福島の人たちの幸せのために」を根本、スタートにするべき
- I o TやA I等10年後を見通せない世の中になっており、自分の受けてきた教育をコピーすることが良いとは言えなくなっている
- グローバル化の進展、人工知能の進化、科学技術の進歩により、仕事や生活のあり方、社会が大きく変わろうとしている
- 計画づくりではバックキャストで考えることが必要ではないか
- 社会課題としてのE S Dや持続可能な社会、本県での医師不足、再エネ、国際研究拠点を教育とどう結びつけていくか
- 県外から人を呼び込むための教育水準を保つことが大事
- 知識の伝達を主眼に置いてきた学校教育や教員の役割を大きく変える必要
- ネット配信の授業が目の前の時代の中で、本県の教育をどう作っていくか戦略作りの意味合いは非常に重い
- オンライン教育とこれまでの全日制の教育がどのように絡んで、コラボレートしていくか

- 将来を見据えた教育の変革の必要性

- コロナの影響で都市から地方への人口の流れ(実力がある人ほど地方から世界とネットワークをつくる)が語られており、その流れを受けて環境整備をするのが大人の責任ではないか

- 新型感染症の影響を踏まえた対応の必要性

- 震災後の取り組みが強みになっている部分もある
- 「福島らしい」ローカルとグローバルを調和させた、あらゆる世代の人々や文化財など地域の全てを巻き込んだ学び
- 福島県の魅力、良いところを発展させていければ良い

- 福島らしさや震災後の取組による強みの発展

## 主な御意見

## 見えてきたもの(事務局)

### (2)学校と地域の協働

- 対話的な場をつくる上で高校生を取り巻く他者の数が少ない。「対話」は地域人材が担ってはどうか
- 地域と子どもを結びつけるときの1つの素材として文化財の活用ができれば良い
- 家庭、地域との連携は重要
- 地域との連携による魅力ある学校づくりは公私立ともに大切
- 学校・地域ごとの差を踏まえ、多様な地域人材活用の全体計画やメッセージが必要**
- 学校に関わりたい人材はたくさんいる一方で、学校で活動する際は、教育・学習活動であることを忘れてはならず、外部の人たちを受け入れやすい体制づくりを考えていくことが必要**
- 学んだことをどう生かせるか、実感できる学びが必要
- ボリュームゾーンの多くの子どもたち、全ての高校生が課題解決を経験し、地域愛や職業への意識が高まった状態で18歳成人を迎えられるようにしたい
- 主体的・対話的で深い学び、他との協働でより良い解決策を求めるESD（持続可能な開発のための教育）の学びを実践している
- 失敗経験をうまく克服させるような教育ができないか**
- 失敗を許す、そしてそれを活かすことができる教育、失敗を恐れなくてチャレンジする心を育むことを大切にしたい**
- 学校で多様な人の中でもまれ、難しい課題を解決してきているか、人に対して説明できるかが社会で求められる**

○地域との連携・協働の重要性

○課題解決を通じた成長、失敗経験の克服の重要性

## 主な御意見

## 見えてきたもの(事務局)

### (3)教師

- 特別支援学校教員の養成における大学との連携、各学校での研修の充実が必要
- 教員志望を増やすために、学校・行政・社会で対応するべき
- 大学と教育委員会が協力して教員の養成・研修・採用を考えることが必要
- 人材を育て上げる誇りある仕事が教師であり、不祥事を起こす暇などないという教師のモチベーションを考えることが必要
- 福島県の財産は熱い想いを持った粘り強い教員の力である
- 教師には、AIが担えない学びを深めるための、ファシリテーターとしてのスキルを身に付ける仕組みが必要
- 部活動や探究活動等について教員が担うべき部分と、教員以外に任せる部分について、整理をしても良いのではないか
- 福島県や日本を担うリーダー、地域産業を担う人材等の多様な人材の育成には、オールラウンドに全てを一人で行うのではなく、ニーズに応じたスキルを持つ教員が必要
- 教員が高齢化している中で、社会の変化に対応できる学生をどう確保していくかが問題
- 知識伝達型の授業が主流であるが、教員の役割が大きく変化することを一人一人自覚する
- 教員の良さを中学・高校でもPRし、教員を目指す人を増やすことが必要
- 教員の学びたいという意欲に対して時間がない実態があり、研修の機会を保障するような働き方改革が必要
- 教員で学校は大きく変わるので、教員の学ぶ場、研修の場を増やすことが大事であり、そのための働き方改革も必要
- 生徒の意欲を高めるための、教員の指導力、授業の工夫等が必要

### ○教員の役割の変化

### ○ニーズに応じた多様な教員

### ○教員志望者の確保

### ○教員の資質向上の重要性

### ○研修時間確保に向けた働き方改革、教員の役割の整理

### (4)ICT

- ICT活用はコロナの休業、学びに興味を持たせること、不登校への対応にあたり有効
- オンラインと学校の良さをそれぞれ生かした学習環境整備を進めたい
- オンラインには良さがあるが、特に小学校時代には、対面から学ぶこともたくさんあり、オンライン教育の良さ人と人が顔を合わせる良さを分析して位置づけていくと良い

### ○学校の良さをいかしたICT活用による学びの变革

## 主な御意見

## 見えてきたもの(事務局)

### (5) 個々の生徒に応じた対応

- 障がいのある子どもに対する入学前からの切れ目のない支援体制の充実
- 重い障がいでも地域で学べる環境づくりや、障がいがあっても地域で働けるよう進路関係の充実が必要
- 発達障がいについて、いまだ誤解や、理解されない部分もあり、その解消に向けての対応の充実を。保護者の理解もまだ低い
- 発達を抱える問題と不登校との関連はある
- 震災の影響は9年間でいろいろ変化しているが、不登校への影響は確実にまだある
- 外国人の子どもや、帰国してきた子どもの就学部分まで含めるならば、そこまで計画に入れ込んでおく必要がある
- 震災による家族構成や経済状況の変化、地域のサポートの変化等が保護者へのストレスとなり、不登校等の問題行動に表れている場合がある
- 様々な問題を抱える子どもがいて、その背景には、様々な発育過程、保護者の存在があることを多くの教職員が認識し、関係者が連携・協調し一人一人に合った生活指導、学習指導できる環境づくりを希望する

- 特別支援教育の充実や不登校生、外国人、帰国子女等への個別支援の重要性

### (6) 社会教育等

- 教育現場だけが教育ではなく、地域全体、家庭、企業などいろいろな立場で成長を後押しできる環境や制度作りが必要
- 学校・塾・家庭だけではなく地域も学びの選択肢となり、地域教育と公教育がつながっていく形が良いのではないか
- 少子高齢化、核家族化、過疎化などと相まって人間関係の希薄化や体験不足が顕著になっている
- 障がいのある子どもたちのスポーツ文化の活動の充実も整えていかなければならない
- 地域の人たちに地域の文化財について、理解を深めてもらい、地域活性化につなげていくことが大切
- 文化財の整理・研究等のためには博物館の存在も重要

- 学校以外の学びの場の充実

**(参考1) 県総合計画から(「基本的な考え方」「留意すべき重要な視点」)(R2.2現在)**

| 基本的な考え方  | 留意すべき重要な視点  |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○誇り(プライド)</li> <li>○連携・共働(共創)</li> <li>○挑戦(チャレンジ)</li> <li>・一人ひとりの想いを大切に</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・複合災害からの復興・地方創生</li> <li>・人口減少・少子高齢化への対応</li> <li>・(上記2点を取り込む)基盤となる人づくり</li> <li>・SDGs(持続可能な開発目標)の考え方との整合</li> <li>・AIやIoTなど新技術や新産業への対応</li> <li>・すべての地域において、それぞれの特性をいかしたゆとりと潤いのある生活習慣の維持・創出</li> <li>・防災・減災、災害からの速やかな復旧・復興</li> </ul> |

**(参考2) 第6次福島県総合教育計画(3つの基本目標に20の施策)**

| 基本理念 | “ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり   |  |
|------|--|--|
| 基本目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成</li> </ul> | <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもたちの豊かな心をはぐくみます</li> <li>②子どもたちの健やかな体をはぐくみます</li> <li>③子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」を身に付けさせます</li> <li>④望ましい勤労観・職業観をはぐくみます</li> <li>⑤障がいのある子どもたちが「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進します</li> <li>⑥高度情報化社会を主体的に生きていく力をはぐくみます</li> <li>⑦国際化の進展に対応できる人づくりを進めます</li> <li>⑧公立大学において、社会をリードし、地域に貢献する人づくりを進めます</li> </ol> |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校、家庭、地域が一体となった教育の実現</li> </ul>            | <ol style="list-style-type: none"> <li>⑨地域全体で子どもたちを教え育てる取組を支援します</li> <li>⑩家庭における教育を支援します</li> <li>⑪生涯を通して学習し、その成果が生きる環境を整備します</li> <li>⑫自然に親しみ、自然を尊重する心をはぐくみます</li> <li>⑬地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するところをはぐくみます</li> </ol>   |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな教育環境の形成</li> </ul>                      | <ol style="list-style-type: none"> <li>⑭教員の資質の向上を図ります</li> <li>⑮一人一人の子どもに教員が向き合うことができる環境を整備します</li> <li>⑯透明性の高い、開かれた教育を推進します</li> <li>⑰安全で安心できる学習環境の整備を促進します</li> <li>⑱地域における身近な文化・スポーツ環境を整備します</li> <li>⑲私立学校の振興を図ります</li> <li>⑳社会情勢や環境の変化に対応した学校づくりを推進します</li> </ol>   |

## (参考3) 第6次福島県総合教育計画策定後の社会の変化 (第1回提出資料より)

- 福島の特徴…県土の広さ、地域ごとの多様性、豊かな文化
- 社会経済情勢の変化…人口減少・少子高齢化のさらなる進行、過疎化、人生100年時代による学習ニーズの多様化  
成人年齢の18歳への引き下げ、AIの進化等の技術革新、グローバル化
- 東日本大震災と原子力災害からの復興・創生
- 新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変化

### 上記を踏まえた、本県ならではの教育の推進

- 福島イノベーション・コースト構想の実現に貢献する人材育成、ふるさと創造学・震災の教訓の継承等の創造的復興教育、福島県地域学校活性化推進構想、ふくしま学力調査・RST、県立高校の魅力化・特色化、遠隔合同授業等極少人数教育の実践、インクルーシブ教育 等